2013年9月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第440号

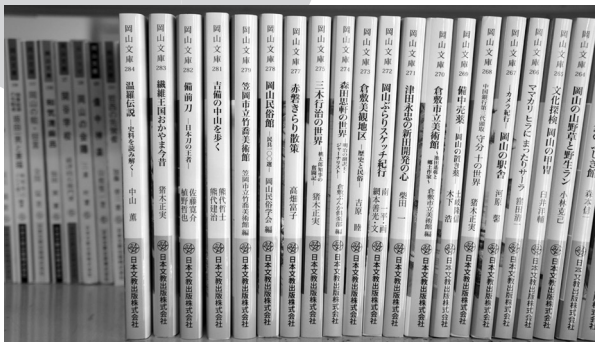
地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体143円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

おかやま県産本ネットワーク（仮称）と岡山の出版

文＝おかやま県産本ネットワーク・山川隆之



岡山文庫は現在シリーズ284巻目

2013年6月中旬、猛暑の始まりを告げるような強い日差しの昼休み、丸善岡山シンフォニービル店のすぐ近くにある中国料理店の一室に、岡山の出版関係者数人が顔をそろえた。山陽新聞社読者局出版担当・藤井英明さん、日本文教出版の専務取締役編集長・黒田節さん、蜻（あきづ）文庫の世良利和さん、そして吉備人出版の山川の4社4人である。

互いに顔は知っているが、一堂に会して地域の出版事情について語り合うのは初めてのこと。「取次店で新刊の備前焼の本が数十冊しか取ってもらえないっていう。以前はこんなことなかったのに」とか「読者の高齢化が進んでいるのを実感するなあ」と、ため息の出るような話題も多かったが、昼飯を食べ終え散会する前には、とりあえず「おかやま県産本ネットワーク（仮称）」を発足しようということになった。地域の出版社がどんどん先細りしているなかで、この時期にあえて地域出版のネットワークとは――戦後岡山の出版を振り返りながら、その意義と役割について考えてみたい。

▽

映画の研究者でライターでもある世良さんが、数年前、沖縄のボーダーインクから「沖縄映画大全」を出版した。その関係で沖縄に行くことも多く、土産話に沖縄の県産本ネットワークのことが話題に上った。その世良さんから、「岡山でも県産本ネットワークをやりませんか」と声をかけられた。私も2度ほど沖縄を訪れ、ボーダーインクとは時折情報交換するなど交流は続いているので、沖縄県産本ネットワークの活動は気になっていた。趣旨は大賛成。だがやるなら、岡山ではやはり日本文教出版や山陽新聞社が加わらなければ、という思いがあった。

「教育の再生」が課題

少し話がずれるが、岡山県が抱えている大きな問題に教育の再生がある。岡山はかつて「教育県」といわれていた。江戸時代の寺子屋の数が長野、山口に続いて第3位であること、大学の数が多い（人口100万人当たりの大学数が全国4位）などがその理由なのだろう。ところが、気がつけば、最近の「全国一斉学力テスト」では下位に低迷し、不登校、校内暴力も全国ワースト上位に。かつての「教育県」の面影はどこにもない。

岡山と同様に教育県として知られるのが信州・長野県。その長野県は「出版王国」としても知られ、数多くの出版人を生み出した土地柄だ。岩波書店、筑摩書房、みすず書房など創業にかかわっている人がたくさんいる。地元の出版も盛んで、現在でも長野県出版協会があり、信濃毎日新聞社をはじめ20社以上が名前を連ねているという。地域出版社がこんなにあるのは長野県と沖縄県くらいかもしれない。少なくとも、県単位で地域出版の協議会、ネットワークがあるのはこの2県だけらしい。

岡山はかつて地方出版の先進県

「出版王国」とまではいかないが、岡山はかつて地方出版の先進県とみられていた。戦後、日本文教出版社が「岡山文庫」を刊行し、ベネッセの前身の福武書店があり、山陽新聞出版局が精力的に地域出版物を刊行し、数多くのヒット作品も生まれていた。

「岡山文庫」は、1964（昭和39）年に刊行が始まり、現在も年間6冊の刊行が続いている。地方・小出版流通センターの川上賢一社長は、「同じ地域文庫シリーズ夢見た出版社は数多くあったが、そのほとんどが挫折している。地域の人々（読者・著者・行政・企業）が資本や労働力を提供して、自らの力で地域の文化を残し創造していく時代の先鞭を果たしてきたといえる」という（文芸春秋「本の話」特集：地方に名書、奇書あり）と、その存在を高く評価している。

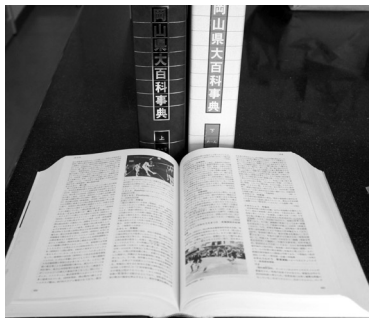
「岡山文庫」により地域での書き手が育成されたことは、山陽新聞社が1980年に刊行した『岡山県大百科事典』（全2巻、4万2000円）につながっていく。事典は実売4万部とも

５万部ともいわれる大ヒットになった。同社はその後、大判のカラー写真集、図鑑、ガイド、万能地図、雑誌など、地域出版のフィールドを耕し尽くす。

「岡山文庫」と山陽新聞社出版局の存在で、70年代から80年代まで、岡山の出版はとても充実していた。書き手は、研究したもの、表現したいものを本にする受け皿が身近にあったし、読み手にとっては、東京の出版社から刊行されない（であろう）地域を掘り起こした本が次々と刊行されたのだから。実際、この時期には近藤義郎編『吉備の考古学的研究』（上・下）＝1992年といった専門的なものも山陽新聞社から刊行されていた。

地域づくりに役立つ存在に

そして、たしかこのころまで「教育県」という呼称が、地元でも通用していたように思う。もちろん、岡山の地域出版と教育の衰退を関連づけるような資料はないが、社会や地域が、経済活動と効率にばかり目が奪われ、その歴史や文化に目を向けなくなると、そのことによって地域出版や教育力の衰退につながる――このことは、まったく無関係とはいえないのではないだろうか。根っこのところはひとつのような気がしないでもない。



山陽新聞社の『岡山県大百科事典』。今も重宝している

ならば、地域で出版活動に携わっている我々とすれば、地域の歴史や自然、文化などにもう一度目を向けるための努力をしよう。地域の本の存在を一人でも多くの人に知らせ、手にとってもらおう。そうすることが、教育の再生をはじめ豊かな地域づくりの一端を担うことになるのではないだろうか。当面は、県内で活動するほかの出版社にもネットワークへの参加を呼び掛け、共同目録の作成や県産本フェアの開催を目指したい。将来的には出版社だけでなく、書店や取次店、著者や編集者などへも声を掛け、地域の本をテーマにした講演会やイベントなども企画できたらと、密かに構想を練っている。

おかやま県産本ネットワーク（仮称）が、ささやかでもそうした地域づくりに役立つ存在になればと思う。

（やまかわたかゆき／吉備人出版代表）

新刊ダイジェスト

※価格は総額（税込）表示です。

『世界遺産登録　富士山　構成資産ガイドブック』●山梨日日新聞社 / 編　富士山世界文化遺産登録推進両県合同会議 / 編集協力

世界文化遺産に登録されて注目が集まる富士山。その構成資産を美しい写真とともに解説してくれるのが本書です。富士山本宮浅間大社をはじめとして、富士山周辺に点在する浅間神社の佇まいからは、信仰の山であることが伝わってきます。山そのものもさることながら、先人たちが積み上げてきた歴史や文化も富士山の大きな魅力であると改めて実感します。もちろん富士五湖や忍野八海といった豊かな自然もありますし、富士講の御師の住宅や登山道そのものといった意外なものも構成資産となっています。実際に訪れる前に一読しておけば各所の見どころもよく分かり、より富士山を楽しむことが出来るでしょう。

◆972円・Ａ５判・79頁・**山梨日日新聞社**・山梨・2013/7刊・ISBN978-4-89710-112-5

『宮沢賢治の農業と文学　－苛酷な大地イーハトーブの中で』●大島丈志著

近代日本文学史上、宮沢賢治とその作品は特異な存在とされてきた。その理由は、賢治が童話作家、詩人、宗教者、農学校教師、農業技術者、工場技師といった多面的な履歴をもっていること、さらに賢治作品が同時代の様相からズレを生じさせて、安易な答えを引き出させないからである。本書では、なぜ賢治作品が生み出されたかについて、羅須地人協会以前、同協会時代、同協会以後に賢治の活動を分けて考える。すなわち、賢治の農業実践と、「チュウリップの幻術」「紫紺染について」「オッペルと象」「農民芸術概要」「或る農学生の日誌」「ポラーノ広場」「グスコーブドリの伝記」等々の賢治作品との関係について実証的に明らかにしていく。

◆3045円・四六判・317頁・**蒼丘書林**・東京・2013/6刊・ISBN978-4-915442-15-5

『今治発！地域史研究家ケイボンがゆく』●大成経凡著

ケイボンこと大成経凡（おおなる・つねひろ）さんは愛媛県越智郡波方町（現今治市）に生まれ、東北の大学に学んだ後地元に戻り、中学校の社会科講師と県の文化調査事業、内航船員として海運経営、ご当地検定「いまばり博士」事業などに関わり、現在は瀬戸内海の自然保全・活用と豊かな生活の確立を目指すNPO法人能島の里理事を務める。そうした様々な経験が、知の利・風土を基調としたまちづくりへの思いを駆り立て、地域の魅力を掘り起し、語り継ぐことに奔走する日々を送るところとなる。村上水軍から今治綿業のルーツ、戦争遺跡の無人島由利島、B級グルメ焼豚玉子飯まで縦横に語って尽きるところがない。

◆1365円・四六判・167頁・**創風社出版**・愛媛・2013/5刊・ISBN978-4-86037-190-6

『終章を生きる　－２０２５年超高齢社会／下野新聞新書７』●下野新聞編集局取材班著

2050年、日本は65歳以上の高齢者が総人口の30％を超えると予想されており、人口の自然減と超高齢化の併存という未経験の事態に直面している。そんな状況で、誰もが最期まで望むように生きられる社会の実現には何が必要か。本書は豊かな終章のありようを模索した下野新聞の長期連載をまとめたもの。医療と介護が一体的に届く在宅ケアの充実による自宅での看取りや胃ろうのその後に焦点を当て、食べることを取り戻そうとする本人や家族の姿、市民やボランティア、時には高齢者同士が手を取り合い、支え合う団体など県内の実例を挙げていく。長寿を心から喜べる社会の実現を目指し、「命の質」を重視する５つの提言で締めくくる豊かな終章への道標。

◆1050円・新書判・238頁・**下野新聞社**・栃木・2013/5刊・ISBN978-4-88286-517-9

『鉄道の話題あれこれ「交通計画特論」　－船についても』●宮田　一・祖田圭介著

タイトルの通りに、鉄道に関する様々な話題が盛り込まれています。複雑な数式を用いて鉄道の姿を捉えようとする論文から、江ノ電についての随想まで、硬軟さまざまなスタイルの文章が収められています。時代的にも国鉄時代のものから最近のものまであり、これまでの日本の鉄道の発達の跡も見ることができます。著者はふたりとも鉄道研究者で、その視点から描かれるのは我々が普段意識していない鉄道の姿です。特に鉄道の配線と鉄道網の形成について詳しく書かれており、日々使う鉄道のダイヤや配線を決める考え方も知ることができます。フェリーの話や巻末にはクイズもあるなど色々と楽しめる一冊です。

◆2100円・Ａ５判・537頁・**冬花社**・神奈川・2013/5刊・ISBN978-4-925236-88-1

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2013年7月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は
所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は総額（税込）表示です。

【雑誌】

◆**文芸あおもり**　第１６０号　野沢　省悟編　Ａ５　157頁　１２６０円　青森県文芸協会出版［青森］978-4-503-19937-9　13/07

◆**あおもり草子**　Ｎｏ．２１７　佐藤　史隆編　Ａ４　64頁　５００円　企画集団ぷりずむ［青森］978-4-503-19938-6　13/08

◆**ゆきのまち通信**　１４７　企画集団ぷりずむ編　Ａ５　50頁　５００円　企画集団ぷりずむ［青森］978-4-503-19919-5　13/07

◆**榛名団**　７号　富沢　智編　Ａ５　94頁　６０１円　榛名まほろば出版［群馬］978-4-503-19922-5　13/06

◆**ＧＲＥＥＮ　ＲＥＰＯＲＴ**　４０３　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２８００円　地域環境ネット［埼玉］978-4-905457-35-0　13/07

◆**子どもと昔話**　Ｎｏ．５６　小澤昔ばなし研究所編　Ａ５　79頁　８３０円　小澤昔ばなし研究所［神奈川］978-4-902875-56-0　13/07

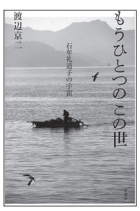
◆**洪水**　第１２号　池田　康編　Ｂ５　144頁　１０５０円　草場書房［神奈川］978-4-902616-57-6　13/07

売行良好書

期間：2013年7月16日～8月15日

［出荷センター扱い］※税込み価格

(1)『那覇の市場で古本屋』1680円・ボーダーインク　(2)『もうひとつのこの世』2310円・弦書房　(3)『世界遺産登録　富士山　構成資産ガイドブック』972円・山梨日日新聞社　(4)『フーリエの冒険　新装改訂版』3675円・言語交流研究所・ヒッポファミリークラブ　(5)『八月のフルート奏者』1785円・書肆侃侃房　(6)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社　(7)『身近にいる不思議な生き物１００種　観察ガイド』1260円・南方新社　(8)『食は薬なり』1260円・金壽堂出版　(9)『中国情報ハンドブック　２０１３年版』3150円・蒼蒼社　(10)『ソウルだ　ソウルだ　ソウルだよ！』525円・Ｂｏｏｋ＆Ｈｏｐｅ　(11)『フィリピンの小さな産院から』1890円・石風社　(12)『出雲大社　平成の大遷宮』3150円・山陰中央新報社



［三省堂書店神保町本店４Ｆ―センター扱い図書］※税込み価格

(1)『昭和プロレスマガジン　３０』1000円・昭和プロレス研究室　(2)『東京かわら版　８月号』420円・東京かわら版　(3)『謎の独立国家ソマリランド』2310円・本の雑誌社　(4)『＜未来＞との連帯は可能である。しかし、どのような意味で？』735円・弦書房　(5)『将門と忠常』1575円・崙書房　(6)『那覇の市場で古本屋』1680円・ボーダーインク　(7)『子どもの心をわしづかみにする「教科としての道徳授業」の創り方』2100円・学芸みらい社　(8)『「国語有名物語教材」の教材研究と研究授業の組み立て方』2100円・学芸みらい社　(9)『千葉氏と妙見信仰』3360円・岩田書院　(10)『松江城と城下町の謎にせまる』1260円・ハーベスト出版

［ジュンク堂書店池袋店地方出版社の本―センター扱い図書］※税込価格

(1)『那覇の市場で古本屋』1680円・ボーダーインク　(2)『高校野球グラフ２０１３』1600円・埼玉新聞社　(3)『埼玉のローカル線のんびり旅』1575円・幹書房　(4)『つむじ風、ここにあります』1785円・書肆侃侃房　(5)『八月のフルート奏者』1785円・書肆侃侃房　(6)『報道写真家　福島菊次郎とゆく』3465円・みずのわ出版　(7)『埼玉の川を歩く』1575円・さきたま出版会　(8)『石心』1785円・石風社　(9)『手賀沼をめぐる中世1』945円・たけしま出版　(10)『立身出世と下半身』2730円・洛北出版

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

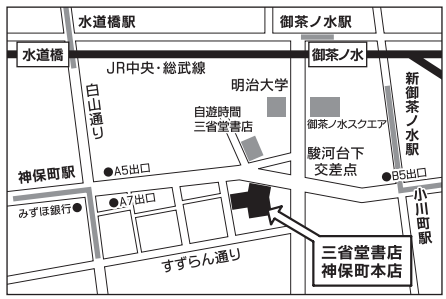
トピックス ―― ★★★

昨年10月に鳥取県立図書館で開かれた**「ブックインとっとり2012」**に出品展示された地方出版物の中から、第26回地方出版文化功労賞が選考され、先日発表されました。／受賞作品は**『北の無人駅から』**渡辺一史著、北海道新聞社刊。本書は「北海道の６つの無人駅とその周辺について書かれた７つのルポルタージュと、その背景となるデータ集で構成されている」。／選考理由は以下の通り。「語られる素材は北海道の特別な物語であるが、その構造や背景は、多くの地方にとって共通性のあるものである。」「著者は善悪や自分の判断を持ち込むのではなく…より深い意味での『あるがまま』を提示している」…等々。／奨励賞に選ばれたのは**『原発を拒み続けた和歌山の記録』**汐見文隆監修「脱原発わかやま」編集委員会編著、寿郎社刊。／「昭和42年に始まり、平成2年におおむね終結となった和歌山県内での原子力発電所設置の動きとそれに反対し、終結へと導いた住民をはじめとした関係者の活動をまとめた記録集である。他の県でもこうした住民の活動はあるがその多くは、記録としては残されていない。そんな中で福島第一原発事故が、それまでの記録として残したいという関係者の気持ちを後押しして、この本は出来上がった。」

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

三省堂書店 BOOKS SANSEIDO
営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間 10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。